

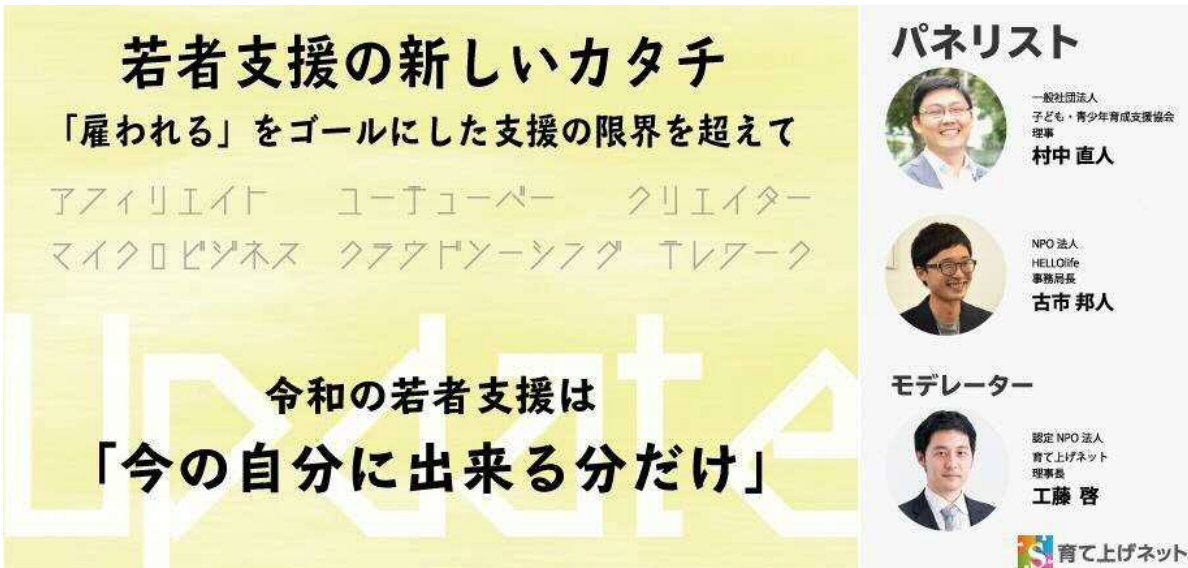
令和元年 9 月 17 日

松阪市議会議長 大平 勇 様

松阪市議会議員 沖和哉

令和元年 9 月 13 日（金）の 1 日間、県外研修に参加いたしましたので、
下記のとおり報告いたします。

松阪市議会 研修参加報告書





若者支援の新しいカタチ
「雇われる」をゴールにした支援の限界を超えて

アフィリエイト ユーチューバー クリエイター
マイクロビジネス クラウドソーシング テレワーク


**令和の若者支援は
「今の自分に出来る分だけ」**


パネリスト

 一般社団法人
子ども・青少年育成支援協会
理事
村中 直人

 NPO 法人
HELLOlife
事務局長
古市 邦人

モデレーター

 認定 NPO 法人
育て上げネット
理事長
工藤 啓

 育て上げネット

日 時 令和元年 9 月 13 日（金） 19:00～21:00（1 日間）

会 場 関西カウンセリングセンター 805 研修室
大阪市北区西天満 2-6-8 堂島ビルディング 8 階

テ ー マ 若者支援の新しいカタチ

「雇われる」をゴールにした支援の限界を超えて in 大阪

講 師 工藤 啓 氏（認定 NPO 法人 育て上げネット 理事長）他

研修目的 全国的にひきこもり支援や若者就労支援がますます重要である。成育歴や個々の特性、または過去の失敗体験から、一般的な就職活動や正規雇用が課題となる若者が少なくないことから、新たな働き方を模索する。

1. 若者支援の新しいカタチを模索する

モデレーター

認定 NPO 法人 育て上げネット 理事長

工藤 啓 氏

パネリスト

認定 NPO 法人 育て上げネット

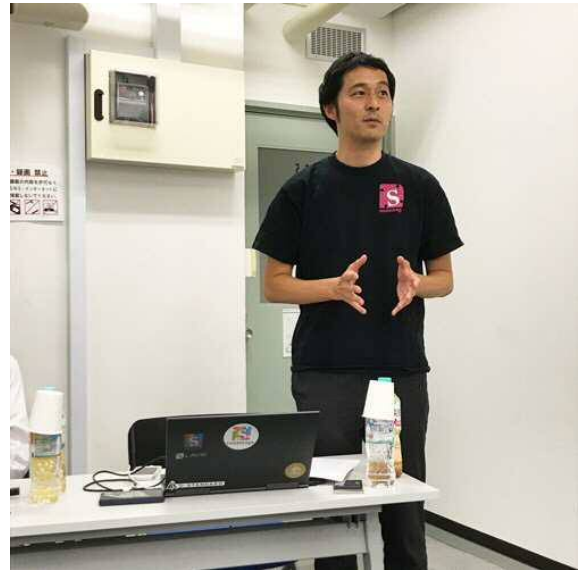
平井 奈穂 氏

NPO 法人 HELLOlife 事務局長

古市 邦人 氏

一般社団法人子ども・青少年育成支援協会 理事

村中 直人 氏



工藤 啓 氏

1-1. 「雇われる」をゴールにした支援の限界を超えて

■ 工藤 啓 氏 (育て上げネット)

正社員が安定しているから正社員雇用を目指すというのは、支援者側の理屈ではないか。一方で、当事者それぞれの課題や固有の特性により、週 5 日フルタイムで通勤することは難しいかもしれないといった場合、どうやって収入を得ていくのか。本人の視点で働き方を選択していけることが望ましいのではないかと考えた。

そのうえで、「雇われる以外の働き方」という選択肢を持つことで、自尊心の回復や自信の創出につながればいいのかなという想いでいる。ただ、正社員や就労が無理なら、創作活動や自営業、起業で生きていけばいいとは考えない。日本では、起業することの方が就職活動よりも圧倒的に厳しいうえに、独力で生活の糧を得られるほど成功していくことは難しい。だからこそ、「働くを拡張する」ことで、新たな 1 歩を作り出せないかという課題提起をしていきたい。

1-2. 働き方の棚卸し

◆ 古市 邦人 氏 (HELLOlife)

働く = 雇用されるという枠組みから離れたうえで、どのような収入の得られ方があるのだろうか、棚卸しをした。その結果、大枠では 3 種類に分類できる。

ブログ等での広告収入を得る「情報発信系」、フリマやオークション、場所貸しなど

の「余り物シェア系」、依頼を受けてこなしたり、才能を活かして制作物を販売したり、講演やレクチャーを行う「スキルシェア系」と体系づけた。若者サポステを運営する中で、要支援対象者の若者たちの中には、興味や趣味、好きなものへのこだわりが強いあまり、また、その他のことへの苦手意識から一般的な就労を躊躇する子が少なくない。そうした場合、これまでの人生の中で培ってきた、それぞれの（なんらかのスキル）を活用してお金を稼ぐことができれば、新しい1歩になると仮定した。

そのうえで、実支援の前段階として、自分たちでまずやってみた。



【ココナラ】 全国大会 スパイスカレーの作り方 → ライバルが多くて反応薄い

【ストアカ】 レクチャー型サイト スパイスカレー教室 → 地元で着実に結果を出す

実際に行った広報は、FB、インスタ、tw など別アカウントでの広報をすすめたことから、本人だけの力では拡散力が弱く、支援者や支援機関、関係者などを通じて拡散していくことが必要である。

1-3. Web 時代の新たな内職

◆平井 奈穂 氏 (育て上げネット)

自分には絵心もなければ、独創的な発想力もない。そのうえで、仕事や家事、育児のすきま時間で出来ることは何かと考えたところ、WEB上で仕事を受注していく形の働き方ができそうだと考えた。

大手のクラウドワークスを利用したが、さまざまなタスク型の仕事が多く、敷居は低いようにも感じた。簡単なアンケートや感想、名刺データの入力やレシートの入力など、ほんの数分から1時間程度の簡易な作業系のワークが数多くあり、慣れも必要だが対象者を選ばずお小遣い稼ぎができる。昔の内職系に近い。

ただ、少し単価の高いプロジェクト型の仕事を受注しようとする、自分自身のプロフィールをかなりの分量を埋めなくては、発注者からオーダーを受けにくい。



また、コンペ式の仕事では、大手企業や行政等からの発注があり、イラストやネーミングの得意な人には良い。また、観光地のオススメ記事などのライティングワークなども多い。SEO 対策で発注者側から、指定された語句を使って文章を組み立てていくため、自分自身の知識だけで書くわけではないため、文章を書くことが苦手でなく、練習を積んでいくことができれば、一定のワークをこなしていけるのではないかと。

1-4. 「好き」をお金に換えて食べていくことはできるか

◆村中 直人 氏（子ども・青少年育成支援協会）

臨床心理士。普段、発達障害支援とスクール支援に関わる。定型発達でない子たちに、就職という1本の答えだけを伝えていくことに限界があると考え、新しい形を探した。

新しい働き方を考えた際に、まず個人的な発信力を高めようとツイッターを多用したことで、1年半でフォロワーが900人から6000人ほどになった。そうすると、個人的な信用度や需要をもとに、情報発信で収入を得られるベースができた。そこで、スキルを収入に変えることとともに、「好き」をお金に換え、収入にしていきたいと考えた。

まず、ブログを立ち上げるために月500円でサーバーを借りた。ワードプレス（Web

アプリ）でブログを構成。かなり自由度がある仕組みで、素人にも簡単。

ひとつは、ブログ記事で商品等を宣伝することで、アフィリエイト収入（Amazon 1冊2.5%）を得る。もうひとつは、Google アドセンスによる広告収入。クリックのみで収入が入る。Google が広告を選ぶため、読者に適した広告が自動的に表示される。



参考：Buzzence.com

現代は、ほぼ終焉を迎えつつある（と考える）マスメディアからマイメディア（個人の発信）への過渡期である。「好き」があふれている人や興味関心がマニアックで止まらない人であれば、文章、写真、動画、イラスト、何かしらの形で発信できるのではないかと考える。また、Web上の記事等は閉じない限り一生残るため、いつまでもお金を生み続けるかもしれない。そうすれば、今現在も、ブログを見てくれている人のアクションにより、数百円、数千円の広告収入が発生しているかもしれない。そうした不労

収入が一定程度あれば、それだけでは生計を維持することは難しいが、自己実現のひとつとなったり、新しいことへ挑戦していく第一歩にはなりえると考えている。

2. フリーセッション

■工藤 氏

商売を前提にするとハードルは高くなるが、好きやこだわりを形にすることで、全世界のニッチな需要が生まれるのかもしれないと思う。マンホールの写真をひたすら何百枚も集めてる人は、スナップショットという写真販売サイトもある。Google 翻訳でプロフィールを英訳すると、海外の人からオーダーを受けられるかもしれない。

◆平井 氏

モノ作りが好きな子の支援の中で、ハンドメイドのピアスをミネ（サイト）で販売。

自信はついたが、就職はモノ作り業界という固定観念がとけず、ジレンマ。就活を一度閉

じて、ミネでどこまで販売できるか、月の生活費を稼ぐためにどれだけ作ってどれだけ売らないといけないかを数値化した。そうすると、大好きなモノ作りが（ストレス）になり、モノ作りの大変さに直面した。その結果、インターンを開始し、週3日の就労へチャレンジ。現在、モノ作りと並行して進めている。



minne
by GMOペパコーポレーション

◆平井 氏

何らかの働き方を小さく始めたあとは、どんな方向性があるか。

- ・情報系アフィリエイト：全国トップレベルになれば食べていけるが…。
- ・余り物シェア系：それだけで生計は立てにくいいため、あくまでも副収入。
- ・スキルシェア系：

A フリーランスとして独立起業。夢は広がるが先は大変。

B 経験を活かして就職する → 履歴書の空白区間を埋めることができる。WEBでライターやってみました、とか。企画や活動の実績としてアピールが可能。

ただ、支援者サイドで、当事者の様々な活動やスキルを、一般企業や他社に対して、より理解してもらいやすいように翻訳していかないといけない。

◆村中 氏

ポンと石をなげたらドンっと広がると思うことがそもそも間違い。マーケティングをしっかりとやらないと、スキルを売るにしてもモノを売るにしても成功しない。何が求められていて、どこに需要があるかを探っていないといけない。だとすると、当事者も支援者も反応が無いことが当たり前ということで始めないといけないし、マーケティング的発想を支援者がきちんと持たなければいけない。TW などの SNS でニーズや反応を探っていくはず。

■工藤 氏

就職のためばかりに本人の事やスキルを見てしまいがちだが、本人のストーリーを引き出していける支援者がいれば、よりもっと本人の中に隠れた商品価値を見つけられるのかもしれないし、本人の新たな気づきが生まれるのだと思う。

また、リスクヘッジの一つとして、なんらかの形で収入を得たとしたら、確定申告や納税の仕組みなど、社会の一員としての役割も示唆していかなくてはならないと思う。金額によっては非課税等もあるが、保護受給中とかであれば、問題視されるリスクもある。支援者としてはそこを認識していないといけない。

◆古市 氏

単純労働が向いている人はその仕事を続けていくことに不満はないが、やり甲斐もなく楽しくはないことが多い。だから、自分の好きを少しだけ金に変える時間や活動を持つことで、日々の潤いや生きがいとして、毎日の生活を継続していける人もいる。

◆村中 氏

ASD（自閉症スペクトラム）のひとつで、感覚過敏のひとつは、僕らが気付けないミリセカンド単位の時間差や周波数の違い、色彩感覚の差など、まったく違って神経経路の違いがある。だとすれば、その人たちが写真や動画などにスキルを発揮できると、ものすごい武器になる。

一方で、蛍光灯は厳密にはチカチカとしているが、ミリセカンド単位の変化に気付けない我々にはわからないが、感覚過敏の方々は感覚として気付いてしまうので、苦痛でしかない。そういった生きづらさや課題を肌身で把握しつつ、向き合っていくことこそが支援者にはやはり求められると考える。

3. 所感

「働く」とはそもそもなんだろうか。いつから、「働く＝正社員として雇われる」というイメージが強くなってしまったのだろうか。元来、働くというのは、「役に立つ」とか「機能する」といった意味もあるだろうし、一定の職に就くという意味でとらえるのであれば、就業形態に限定は無く、正社員として雇用されようが、非正規として雇われようが、自営業でもアーティストでも文筆家でも音楽家でも生業としての働き方に違いはなく、職に貴賤などないのである。

しかしながら、就職活動や就労に悩む若者たちの周辺環境は、それをなかなか良しとしない。両親はもちろん、日本の学校教育や社会状況も、一般的には、高等教育課程へ進学し、大中小はそれほど問わないけれども「それなりに」名の通った企業に就職することを善とする意識が根強い。いい学校いい会社という、ステレオタイプな進路を求められることで、そこにやりがいや喜びを見出しにくい層のひとたちや、何らかの課題や特性によりフィットできないひとたちは、大きなストレスとなり、自己否定に至ってしまう。

もちろん、セミナーでも講師が触れていたように、一般的な正社員雇用が自営で生きていくよりも比較的楽に生活を安定化させるし、リスクも少ない。けれども、最低賃金が1000円に近づくこの時代においては、1時間1000円以上の価値を提供できるよう労働者一人ひとりの労働価値を高めなければ、正規に雇用されずこぼれ落ちていく結果を生んでしまう。そうなると、本人の特性やスキルを活かし、興味や「好き」を最大限活かせる様々なマルチチャンネルでお金を稼ぐ仕組みや、選択肢を提示できなければ、ベーシックインカムとしての行政的扶助費が増大するリスクは目に見えている。

だからこそ、これまでの正社員を目指す正攻法一辺倒のキャリア教育ではなく、子どもたち個々に寄り添った「お金の稼ぎ方」としての仕事観やスキルの身に着け方を、選ばせてあげられる社会教育でなければならない。手間も時間も経費もかかるだろうが、子どもや若者への財政出動は将来への投資である。一人ひとりがそれぞれの力で働いていける仕組みをつくることは、巡り巡って納税者を育てることと同義である。



堂島川（大阪市）